

目指す学校像	○生徒が、学ぶ楽しさ、生きる喜びを味わえる学校 ○保護者・地域の期待に応え、信頼され、愛される学校	○教職員が、やりがいと誇りを持てる学校
--------	--	---------------------

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 生徒に確かな学力を定着させ、生徒一人一人の学ぶ意欲や能力・個性を伸ばさせる。 生徒の心情に寄り添い、コミュニケーションを大切に生徒指導・教育相談を展開する。 家庭及び地域との連携の一層の強化を図り、信頼され、愛される学校づくりを推進する。 「学びの場」にふさわしい安心・安全な教育環境づくりを推進する。
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価		年 度 目 標		年 度 評 価		学校運営協議会による評価			
年 度 目 標		年 度 評 価		年 度 評 価		実施日令和6年2月16日			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策		
1	<p>○生徒は授業に落ち着いて取り組んでいる。</p> <p>○R4年度の全国学力・学習調査によると、「学校の授業以外に家庭等での学習時間が「2時間以上」の生徒が37%いる反面、「1時間未満」の生徒が約37%いることがわかる。また学校が休みの日の家庭等で学習に取り組む時間が「3時間以上」の生徒は12.4%、「1時間未満」の生徒は41.1%であった。</p> <p>【課題】</p> <p>○生徒の学習習慣を一層確立させ、その内容や質にも迫る必要がある。</p> <p>○教職員が授業改善に取り組み、「主体的・対話的で深い学びを」を一層充実させる必要がある。</p>	<p>○生徒の学習習慣の定着と学習意欲の向上</p> <p>○『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた学校全体での取り組みの推進(指導者を招聘してSTEAMS教育の研修、全職員による研究授業の実施)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 放課後に学習支援教室を定期的に開設し、生徒の学習習慣の定着に努める。 小テストの実施や課題提出、宿題等により、家庭での学習時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレットパソコンを活用して個別最適な学習に取り組めるように生徒に働きかける。(スタディーサプリ、ドリルパークの活用) 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートにより生徒の家庭(授業以外)での学習時間が増えたか。 アクティブラーニング型の授業実施回数が増加してきたか。 タブレットパソコンの使用頻度が増加したか。 	<p>・アンケートの結果、土曜日や日曜日など学校が休みの日に3時間以上勉強をしている生徒は22.7%であった(前年度12.4%)同時に全く勉強をしないと回答した生徒は25.3%(前年度13.7%)であった。月2回の放課後学習支援教室(メタモルフォーゼ)は毎回20~30名程度の参加者があり自主的に学習に取り組もうとする生徒に学習の場を適切に提供することができた。</p> <p>・全教職員が「主体的・対話的で深い学び」(アクティブラーニング型の授業)の研究授業・公開授業を実施した。教職員が相互に授業を参観し意見交換をしながらアクティブラーニング型の授業の質の向上が見られた。</p> <p>・良い授業のアンケート生徒主体の活動(アクティブラーニング型授業)のポイントが18.0であった。(昨年度16.8)また、授業時のタブレットの利活用についてのアンケートでは「ほぼ毎日使う」「週3回以上使う」の回答の合計が77.3%(前年28.8%)でタブレットPCの利活用の増加が認められる。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 各教科適切な課題(宿題)を出したり、単元ごとに小まめに小テストを実施したりすることによって家庭での学習習慣の定着を促す必要があると考える。また、放課後学習教室(メタモルフォーゼ)を引き続き実施し生徒の自主的な学習支援を行う。 教職員の授業力向上を目指して来年度も引き続き全教職員が研究授業・公開授業を行い、教職員が相互に授業を参観できる環境を作る。 ドリルパークやスタディーサプリを活用した反復学習に加えて調べ学習、探究学習等に活用する場面を多く設定する。 	<p>・教職員が生徒のために熱心に教育活動に取り組んでいる様子がわかった。</p> <p>・家庭学習での学習が大切であるので保護者の協力を得ながら家庭学習の習慣が身につくように働きかけてほしい。</p> <p>・放課後学習支援教室やチャレンジスクールに参加する生徒が多いことは良いことである。参加生徒に対してどれだけ効果があったかを測定することも大切である。</p>
2	<p>【現状】</p> <p>○R4年度の全国学力・学習調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」の設問に対して本校の生徒の肯定的な回答は94.6%であった(全国平均83.9%)生徒指導担当者や教育相談担当者を毎週定期的で開催し、情報共有の徹底及び個々の事案についての組織的な対応について確認を行っている。</p> <p>【課題】</p> <p>○日常のあらゆる場面において「自主的に判断し行動できる能力の育成」を推進していかなければならない。また、個に応じた対応が多く求められる中で、生徒や保護者とコミュニケーションをとりながら丁寧な生徒指導・教育相談の実施が一層必要となる。</p>	<p>○個の状況に応じた組織的な支援・指導の推進の徹底と情報共有の徹底</p> <p>○自分で考えて自己の安全・生命を守ることができる実践力の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導担当者会、教育相談担当者会を通じて学校として応じて関係機関とつながり組織的に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「人間関係プログラム」「道徳」「特別活動」等の授業を通して生徒同士が自分の考えを発表したり、他の生徒の考えを聞いたりすることにより、自主的な判断や行動ができる力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導担当者会及び教育相談担当者会で各学年の指導の体制や課題を毎回確認し適切な指導や支援ができたか。 また、支援が必要と思われる生徒の中でカウンセラーや相談室等と関わりを持ってない生徒への積極的な働きかけが出来たか。 	<p>・「生徒指導担当者会(生徒指導委員会)」「教育相談・特別支援教育担当者会(教育相談・特別支援教育委員会)で各学年の情報交換、対応方針等を適切に確認しながら組織的な対応ができた。</p> <p>また、必要に応じて関係外部機関と連携を取りながら実態に応じた対応をすることができた。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 不登校や教室に入ることのできない生徒が増加傾向にあり引き続き粘り強い対応が必要である。生徒・保護者との面談や電話連絡、校内教育支援センター(Sola るーむ)の活用、外部教育相談機関、医療機関等との連携を図りながら該当生徒の支援を行う。 	<p>・教職員が生徒の心情に寄り添いながら対応している様子がわかった。今後も続けてほしい。</p> <p>・不登校生徒の増加が大きな課題である。</p> <p>・今後とも必要に応じて外部機関などとも連携しながら課題のある生徒に対して粘り強く対応をしてほしい。</p>
3	<p>【現状】</p> <p>○R4 全国学力・学習調査の「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の設問に対して肯定的な回答が26%(全国40%)、否定的な回答が74%(全国60%)であった。</p> <p>○R4 学校評価アンケートで「学校からの情報発信に関する設問で肯定的な回答は生徒80%、保護者86%であった。</p> <p>【課題】</p> <p>○今まで新型コロナウイルス感染症影響もあり生徒が地域で活動する場面が限られていた。</p>	<p>○地域に貢献できる生徒、地域で活躍できる生徒の育成</p> <p>○学校運営協議会や地域の諸団体等との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校だより、学校ホームページ、学校安心メール等を活用し積極的に保護者や地域に情報発信をする。また地域や保護者から電子メールなどで要望や意見を寄せてもらえるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケート(生徒・保護者)の「七里中は情報発信とともに意見・要望等の受信等を通して、『家庭・地域』との連携に努めている」の設問に対して8割以上の肯定的な回答を得られるか。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校アンケートで「本校の先生は、悩みや相談に乗ってくれますか」の設問に85パーセント以上の肯定的な回答を得られたか。 	<p>・学校アンケートの「本校では、生徒の様子や活動について情報発信を行い、家庭・地域との連携に努めている。」について『そう思う』が50%(昨年度47%)『ややそう思う』が43%(昨年度39%)と肯定的な回答の合計が93%(昨年度86%)であった。</p> <p>・「避難所運営訓練」「朝のラジオ体操」「近隣小学校の周年記念行事」等に本校の生徒の参加や学区の公共機関等に花を贈る活動など評価を頂き、次年度の継続を期待されている。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校だより、学校安心メールなどを活用して積極的な保護者、地域への情報発信を続ける。 「地域に貢献する生徒」「地域に育ててもらおう生徒」を目指して持続可能なボランティアのシステムを構築する。 	<p>・毎月 学校だよりが配付される際に必ずメッセージカードが添えられている。地域の人たちを大切にしてくれる姿勢を評価したい。</p> <p>・避難所運営訓練をはじめ地域の行事や活動に多くの中学生が参加し、地域と学校の連携を深めてほしい。</p>
4	<p>【現状】</p> <p>○学校課題に対して計画的に全職員で研修に取り組む体制が出来ている。</p> <p>【課題】</p> <p>○学校管理下の教育活動における危機管理について具体的な事例を通しての研修が更に必要となる。</p>	<p>○主体的に課題克服に向けて協働して取り組もうとする教員集団の育成</p> <p>○危機管理意識を常に持った職員の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> STEAMS TIMEについて、年間を通じて計画的に校内研修を実施し指導に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> 探究的な学習の基盤となる学びについて校内研修を通して学校としての共通認識ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 探究的な学習の基盤となる学びについて校内研修を通して学校としての共通認識ができたか。 教職員が安全管理について意識し生徒に対して適切な指導を行うことが出来ていたか。 	<p>・教育委員会から指導者を招き、「探究的な学び(総合的な学習の時間・STEAMS教育)」「適切な評価方法」などについて校内研修を実施した。</p> <p>・防災訓練(避難訓練)を年2回実施(火災・地震・たつまき)生徒への安全意識の高揚につめている。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 「教える」から「学ぶ」授業に転換できるように、学びのポイントを意識した学習過程を展開する。 市教委による指導訪問、学力向上カウンセリング訪問等を活用したり、校内研修を充実させたりして授業力の向上を図る。 大震災を想定した防災訓練を実施する。学活の時間や各教科で安全・人命に関連する単元等で災害について学び、生徒が安全について自ら考える場面を設定する。 	<p>・予測困難な時代を生きる生徒に対して協力して課題に対して向かっていくことができる力を身につける指導をお願いしたい。</p> <p>・防災教育は非常に大切である。形式的な防災訓練にならないように常に震災を意識しながらあたってほしい。</p> <p>・小・中で合同で防災教育(避難訓練等)ができるとうよい。</p>